

Title	医療ツーリズムの推進政策の下で考える医療ツーリズムエージェントのビジネスモデル
Sub Title	
Author	王, 劭華(O, Shoka) 田中, 滋(Tanaka, Shigeru)
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2010
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2010年度経営学 第2505号
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002010-2505

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

80930131

王 劭華

主査

副査 1

副査 2

田中 滋

磯辺 剛彦

山根 節

研究テーマ

医療ツーリズムの推進政策の下で考える 医療ツーリズムエージェントのビジネスモデル

内容の要旨

日本は、1990年代以降、失われた十年と言われる長い過渡期を送りながら、経済が回復しないまま21世紀に突入した。いっぽう、近隣である中国は21世紀に入ってから、曾てない急成長を遂げ、世界第二の経済大国の座を今年にも日本から奪い取る。こうした時代と国際環境のなかで、日本政府は、2009年12月30日に閣議決定された新成長戦略(基本方針)6つの戦略分野のうちの1つ「ライフ・イノベーションによる健康大国戦略」のなかで「アジア等海外市場への展開促進」として「アジアの富裕層等を対象とした健診・治療等の医療および関連サービスを観光とともに促進」と盛り込んだ。また、2009年1月、経済産業省商務情報政策局サービス産業課における「サービス・ツーリズム(高度健診分野)研究会」が設置された。医療ツーリズムの可能性とこれからの展開について、実証事業を実施し、2009年8月4日に「研究会とりまとめ」を公表した。医療ツーリズム推進の主旨とは、健康に関わる日本的な文化やそれに立脚した日本の医療の情報を海外に発信することは、モノづくり以外の分野での国際貢献と、国内における関連産業の活性化に繋がると期待されると「研究会とりまとめ」で明示した。

本研究は、「研究会とりまとめ」から取り上げられた医療ツーリズム推進上の課題について分析を行い、医療ツーリズム事業を達成させるために、エージェントの存在が必要不可欠である結論に結びつけた。そのエージェントは、ビジネスとして成り立ち、事業として存続できるようなビジネスモデルとはどのような特徴があるかを考え、医療ツーリズムエージェントのビジネスモデルの設計を行った。そして、中国の顧客は、医療ツーリズムに対し、どのような認識を持ち、どのように期待をしているのかについて、中国現地での関係者インタビュー調査と顧客アンケート調査を行った。また、2010年12月14、15日の二日間に渡り、中国から医療ツーリストによる医療ツーリズムの試行事業を日本の医療機関に

において実施した。さらに、中国でのインタビュー調査、アンケート調査、それに試行事業から、医療ツーリズム推進上の課題を整理し、エージェントビジネスの課題を抽出し、分析を加えた。最後に、各種調査と分析の結果を踏まえ、エージェントビジネスモデルの検証を行い、エージェントの事業戦略を考察した。

なお、本研究は、学術的な理論研究ではなく、文献、実態調査に基づく実証事業による研究にあたるものである。